

# 地域と連携した防災訓練等事例集 【平成 28 年度版】

平成 28 年 12 月

教育局総務室教育ビジョン・防災グループ

## はじめに

東日本大震災から5年半が経過しましたが、「首都直下型地震」をはじめとする大規模地震の切迫性が高まっているとともに、今年度においても自然災害が発生し、熊本地震や台風10号による豪雨などの甚大な被害を受けるとともに、尊い命が失われています。そうした自然災害から児童・生徒の大切な「いのち」を守らなければなりません。

さらに、学校は、災害時、避難所指定の有無に関わらず、近隣住民の方々が避難してくることが予想されますので、地域の方々の「いのち」を守る防災拠点としての役割も期待されています。

児童・生徒の「いのち」と地域の方々の「いのち」を守るためには、学校の立地条件や特徴を踏まえて、日頃から学校と地域とが「顔の見える関係」を作り上げておくことが重要であり、そうした関係づくりには、学校と地域が、連携・協力して防災訓練等を実施することがたいへん有効です。

この冊子は、各学校が地域との「顔の見える関係」づくりを行う際のヒントとなるよう、地域と連携した特徴的な取組みを進めている学校の協力をいただき、平成28年度版の事例集を作成しました。

この事例集を参考に、全ての県立学校において、地域との緊密な連携のもと、防災対策の推進が図られることを願っています。

平成28年12月

神奈川県教育委員会教育局

総務室長 長野 敏昭

## 目次

### ■地域と連携した防災訓練■

事例 1	神奈川工業高等学校	．．．．．	P. 2
事例 2	横浜翠嵐高等学校（定時制）	．．．．．	P. 4
事例 3	横浜清陵総合高等学校	．．．．．	P. 6
事例 4	横浜南陵高等学校	．．．．．	P. 8
事例 5	磯子工業高等学校	．．．．．	P. 10
事例 6	氷取沢高等学校	．．．．．	P. 11
事例 7	白山高等学校	．．．．．	P. 12
事例 8	舞岡高等学校	．．．．．	P. 13
事例 9	生田東高等学校	．．．．．	P. 14
事例10	平塚工科高等学校	．．．．．	P. 16
事例11	小田原総合ビジネス高等学校	．．．．．	P. 18
事例12	茅ヶ崎高等学校	．．．．．	P. 20
事例13	茅ヶ崎西浜高等学校	．．．．．	P. 22
事例14	厚木東高等学校・厚木商業高等学校 その1	．．．．．	P. 24
事例15	厚木東高等学校・厚木商業高等学校 その2	．．．．．	P. 26
事例16	伊勢原高等学校	．．．．．	P. 28

事例17	有馬高等学校	.....	P. 30
事例18	津久井高等学校（定時制）	.....	P. 32
事例19	鶴見養護学校	.....	P. 34
事例20	みどり養護学校	.....	P. 36
事例21	武山養護学校	.....	P. 38
事例22	鎌倉養護学校	.....	P. 39
事例23	岩戸養護学校	.....	P. 40

■ D I G（ディグ 災害図上訓練） ■

事例 1	旭高等学校	.....	P. 44
事例 2	舞岡高等学校	.....	P. 45
事例 3	松陽高等学校	.....	P. 46
事例 4	百合丘高等学校	.....	P. 48
事例 5	平塚商業高等学校	.....	P. 50
事例 6	小田原高等学校（定時制）	.....	P. 52
事例 7	小田原総合ビジネス高等学校	.....	P. 54
事例 8	座間高等学校	.....	P. 55
事例 9	鎌倉養護学校	.....	P. 56

# ■地域と連携 した防災訓練■

## 事例 1 神奈川工業高等学校 「自治会・近隣保育園・学童等と連携した訓練」

名 称	神奈川工業高校 地域との合同防災訓練
日時・場所	平成28年 8月29日（月）10時10分～12時40分 ホームルーム（HR）教室・グラウンド（雨天時：体育館）・3階ホール
学習のねらい	○地震発生時に安全確保行動（シェイクアウト行動）を行い、防災への意識を高める。 ○災害発生時の避難方法及び経路を確認し、安全にグラウンドに避難する。 ○地域（二谷小学校、平川町自治会、いずみ東白楽保育園）との合同防災訓練を行い、地域の一員としての自覚を滋養する。
主 催	学校主催（地震・津波）
参加団体	平川町自治会、神奈川消防署、二谷小学校、いずみ東白楽保育園、神奈川区役所
参加人数	自校生徒914名・教職員80名、二谷小学校2年生児童60名・教職員2名、平川町内自治会41名、神奈川消防署5名、神奈川区役所防災課2名、いずみ東白楽保育園4・5歳児27名及び教職員3名
事前準備	5月 所掌グループで企画を立案。同時に関係各位と連絡及び調整 6月 企画会議、職員会議で提案し教職員に周知 7月 関係各位との打合せ 8月22日 関係各位への1週間前最終確認
実施内容	<p>○想定地震によるグラウンドへの避難訓練と、その後の大津波警報想定により、本校生徒が地域住民と小学生を本校3階まで避難誘導した。</p> <p>(1) 地震避難訓練 各HRにおいてシェイクアウト訓練を行い、出火によりグラウンド（当日は雨のため体育館）への避難訓練を行い、神奈川消防署の講評を受けた。</p> <p>(2) 津波避難訓練 大津波警報想定により本校2年生（2クラス）が平川町北・南の住民（園児含む68名）と二谷小学校2年生（60名）を本校3階ホールまで避難誘導訓練をした。避難完了後、神奈川区役所防災課より防災講話が行われた。</p>
	   <p>【小学生等を避難誘導】                      【ホールへ避難】                      【防災講話】</p>
参加者の主な声	<p>【生徒】 ○地域の方々の誘導で地域の方と初めて話すことになった。災害の時には、地域の方のことも考えなくてはいけないことがわかった。</p> <p>【教職員】 ○地域の方々との防災訓練を行ったことで、災害時の本校の役割を再認識した。</p> <p>【地域】 ○広域避難場所の確認ができた。近くに住んでいても校舎の中に入る機会がないので、このような機会があることで神奈川工業高校の校舎の中に入れることがありがたい。</p>

工夫した点	当日が小学校の始業式だったので、小学生はなるべく早く学校へ戻すよう企画した。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○シェイクアウトの方法を身につけることができた。</li> <li>○避難経路の確認ができた。</li> <li>○神奈川区役所・消防署よりご指導をいただくことで、防災への意識を高めることができた。</li> <li>○地域の方々との防災訓練を通し避難誘導のやり方について学び、地域の一員としての自覚を滋養することができた。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○防災訓練を継続するためには、神奈川消防署及び区役所防災課の協力が不可欠であるため、訓練実施日時等の調整を丁寧にする必要がある。</li> <li>○参加される地域の方々への訓練実施日時等の調整。</li> <li>○地域の方々の意見を取り入れて企画内容の見直しを図りたい。</li> </ul>
今後の展開	今後も継続して自治会・近隣保育園・学童等と連携した防災訓練を行っていききたい。

## 事例2 横浜翠嵐高等学校（定時制） 「夜間の停電を想定した避難訓練」

名 称	横浜翠嵐高等学校 定時制 避難訓練
日時・場所	平成28年9月28日（水）19時25分～19時55分 各授業教室、生徒昇降口
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○通常授業中に避難を行う際の点呼の取り方を確認すること。</li> <li>○地震による停電のなかで、避難経路の安全性を確認すること。</li> <li>○学校周辺自治会の方々に訓練を見ていただくと同時に、地域の状況を教えていただくこと。</li> </ul>
主 催	学校主催（地震）
参加団体	三ツ沢南町自治会
参加人数	自校生徒184名・教職員30名、三ツ沢南町自治会3名
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業クラスごとの点呼用名簿の作成</li> <li>○自治会への訓練内容の連絡・調整</li> </ul>
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地震と夜間授業中の停電という想定で防災訓練を行った。</li> <li>○訓練の開始と同時に職員が階段の非常灯以外の照明をすべて消した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）停電状態の避難訓練 照明を消した中で、職員や生徒が持参の光源を使用して集合場所まで避難した。</li> <li>（2）避難確認・点呼 授業クラスごとの名簿を用いた避難確認・点呼を行った。</li> <li>（3）地域の方々からの話 地域の状況について学んだ。</li> </ul> </li> </ul>
参加者の主な声	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○携帯電話の灯りでは少し暗かった。</li> </ul> <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○避難後、クラスごとに並ぼうとしてしまった生徒がいた。実際の地震を想定すると、授業ごとにスムーズに点呼ができるように、訓練をかさねる必要がある。</li> <li>○避難場所に出る時間よりも点呼の方に時間がかかりすぎていた。迅速にチェックができるような名簿を作成するべきである。</li> <li>○靴を普段どおりに履き替えている生徒が見られた。授業担当者が指示を与えることができるようにしたい。</li> <li>○防災倉庫の周知と、防災用品の充実をはかる必要がある。また、全日制の倉庫とカギを共有するなど、用品の利用についても柔軟に対応できるようにしたい。</li> </ul> <p>【地域の方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○周辺地域は高齢化が進んでおり、大地震発生時には多くの方がみなさんの力をお借りしなければならない状況になると思います。そのときはぜひ助けに来てください。</li> </ul>
工夫した点	大地震による夜間の停電を想定して、暗い中の避難行動をとった点。

成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○暗い中の避難行動の大変さを体感できた。</li> <li>○普段交流のない地域の方々と知り合い、地域の状況を全校で聞くことができた。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難行動がスムーズだったことを受けて、さらに校舎が倒壊した箇所を想定しながら臨機応変な行動がとれるようにすること。</li> <li>○地域の方々により多くの場面で訓練に関わっていただけるようにすること。</li> </ul>
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○さらに避難が難しい状況を想定して、安全な避難経路・避難行動を探ってゆく。</li> <li>○災害時に本校生徒・職員が地域に対してどのようなことができるかを確認する。</li> <li>○防災用品の充実及び利用方法についての訓練を行う。</li> </ul>

### 事例3 横浜清陵総合高等学校 「近隣保育園・ケアプラザと連携した訓練」

名 称	清水ヶ丘地域ケアプラザ・清水ヶ丘保育園と連携した訓練
日時・場所	平成28年9月1日（木）10時50分～12時40分 グラウンド
学習のねらい	地域と連携した実践的な活動を通し災害時の対応について学習する。
主 催	学校主催（地震）
参加団体	清水ヶ丘地域ケアプラザ・清水ヶ丘保育園
参加人数	自校生徒779名・教職員71名、清水ヶ丘地域ケアプラザ6名、清水ヶ丘保育園25名
事前準備	各団体との事前打ち合わせ
実施内容	<p>○近隣の保育園、ケアプラザと連携して、地震発生時グラウンドへの避難誘導訓練を行った。</p> <p>（1）清水ヶ丘地域ケアプラザとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の避難訓練に合わせ、清水ヶ丘地域ケアプラザでも避難訓練を実施する。</li> <li>・清水ヶ丘ケアプラザの一時避難場所から、ケアプラザ職員が、本校への避難要請の伝達を行う。</li> <li>・避難要請を受け、本校生徒及び職員が一時避難所に向かい、車いすの避難者を本校まで誘導する。</li> </ul> <p>（2）清水ヶ丘保育園との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の避難訓練に合わせ、清水ヶ丘保育園でも避難訓練を実施する。</li> <li>・本校生徒がグラウンドに避難完了後、科目「発達と保育」履修の生徒及び職員が、清水ヶ丘保育園に向かい、園児を本校グラウンドまで避難誘導を行う。</li> </ul>
参加者の主な声	【ケアプラザ職員】 年1回でも、このような機会に顔合わせできる事が良い。
工夫した点	車いすの誘導は、授業で車いすの実習を行う「家庭看護基礎」、保育園へは「発達と保育」履修者をあてる。
成 果	○近隣の保育園、ケアプラザと連携して行えた。 ○生徒が地域防災の意識を持って行動することができた。
課 題	グラウンド集合時に、トランペットスピーカーでは、全校生徒に声が届かない面があった。
今後の展開	今後も清水ヶ丘地域ケアプラザ、清水ヶ丘保育園との連携は継続したい。



#### 事例4 横浜南陵高等学校 「地域主催の訓練に生徒と共に参加」

名 称	日野小学校地域防災拠点防災訓練
日時・場所	平成28年9月24日（土）9時～12時30分 本校及び日野小学校
学習のねらい	○地域の防災訓練に参加することにより、地域の一員であるという自覚と防災意識を高める。 ○社会福祉部生徒は手話技術の向上と実践に努める。
主 催	地域主催（地震）
参加団体	本校周辺自治会、港南区役所、横浜市立日野小学校、近隣動物病院
参加人数	本校生徒15名・教職員2名、周辺自治会124名、港南区役所4名、日野小学校2名、近隣動物病院2名
事前準備	○防災係の生徒に訓練の意義と内容を説明 ○社会福祉部生徒が当日の挨拶・説明の原稿の手話練習 ○訓練で使用する車椅子の点検 ○町内会長との打ち合わせ
実施内容	<p>○防災係と社会福祉部の生徒は、横浜南陵高校から地域防災拠点の日野小学校まで、生徒を乗せた車椅子を押しながら移動を行い、会場では地域住民とともに次の訓練に参加した。また、社会福祉部生徒は手話通訳も行った。</p> <p>（1）防災機材取扱訓練 発電機、投光機の取扱訓練を行った。</p> <p>（2）アマチュア無線訓練 町内会員のアマチュア無線ボランティアが港南区役所災害対策本部に現状を報告、指示を仰いだ。</p> <p>（3）下水道直結式トイレ組立訓練 下水道直結式トイレを組み立て、実際に水を流してみた。</p>
	 <p>【手話通訳(概要説明)】 【手話通訳(市長からのメッセージ)】 【トイレ組立て】</p>
参加者の主な声	<p>【生徒】</p> <p>○仮設トイレの組み立て方がわかった。 ○普段体験できないことを地域との関わりを通して学べてよかった。若い方にも参加してほしかった。 ○皆さんの前で手話通訳をやれてよかった。</p>
工夫した点	生徒たちも訓練班に入って活動したので、地域住民と交流ができた。
成 果	生徒たちは積極的に簡易トイレ組み立てや備蓄食料配布を行うなど、地域の人々と交流し、防災意識を高めることができた。また、手話通訳も喜ばれた。

課 題	<p>○土曜日ということもあり、部活動等のため、防災係の生徒で参加できない者も多かった。社会福祉部の生徒も他の行事と重なり、全員は参加できなかった。</p> <p>○成果を一般の生徒にどのように広げていくかが課題である。</p>
今後の展開	<p>毎年継続的に訓練に参加することにより、地域との連携を深め、地域に貢献していきたい。</p>

## 事例5 磯子工業高等学校 「町内会・消防署と連携した避難訓練」

名 称	平成28年度 防災訓練
日時・場所	平成28年7月13日（水）11時25分～12時10分 駐車場、体育館
学習のねらい	○火災を想定し、避難訓練に続き、消火訓練として消火栓・放水ホースの取り扱い、放水実技を学ばせる。【1年生】…地域の方はこちらに参加 ○地震を想定し、避難訓練に続き、生徒帰宅班別の教室を確認させる。次の生徒帰宅班別の下校訓練につなげる。【2・3年生】
主 催	学校主催（地震）
参加団体	横浜市磯子区森南町内会、横浜市港南区日下連合町内会、横浜市消防局磯子消防署杉田出張所
参加人数	自校生徒672名・教職員67名、磯子区森南町内会10名、港南区日下連合町内会5名、横浜市消防局磯子消防署杉田出張所7名
事前準備	○消防署との日程調整、事前打合せ ○訓練実施日程を警備会社へ連絡 ○地域町内会へ参加招請
実施内容	○地域と連携して避難訓練を行った。 （1）消火訓練 消防署員からホースの使い方の説明を受けた後、消火ポンプを起動させ、生徒・職員・地域住民が消火栓からの放水訓練を行った。 （2）避難誘導訓練 授業担当職員が生徒を引率し体育館へ避難誘導を行った。解散後、各HRで地域別帰宅班を生徒に確認した。
参加者の主な声	【地域】 ○来年度も参加する。 【地域・生徒・教職員】 ○放水訓練で校舎3階まで放水が十分届くことが確認できた。
工夫した点	屋外避難場所のクラス別表示シート、生徒帰宅班別生徒名簿、全学年生徒確認一覧表
成 果	○一斉放送、生徒引率、避難誘導、集合、所在確認、報告、放水訓練といった災害時の流れを確認できた。 ○消防署、磯子区森南町内会、港南区日下連合町内会と連携して実施することができた。
課 題	備品の更新
今後の展開	地域共催の継続

## 事例6 氷取沢高等学校 「消防署のイベントに児童のサポート役として参加・体験」

名 称	「キッズわくわく消防体験塾」のサポート
日時・場所	平成28年8月17日（水）13時～16時 磯子消防署
学習のねらい	<p>○磯子消防署主催で行われた体験型防災訓練に本校生徒が参加する。</p> <p>○生徒には様々な体験を通じて防災に関する意識を高めるのみならず、地域の児童生徒と共に参加することによって、消防署員のサポートを適宜行う役割も担う。</p> <p>○日頃学校の授業では感じることのできない、社会学習の一環の場としても大きな行事となっている。</p>
主 催	地域主催（地震）
参加団体	磯子消防署、参加申込みした市内小学3年生から中学6年生
参加人数	自校生徒10名・教職員2名、市内小学3年生～6年生80人、保護者80人、磯子消防署30名
事前準備	消防署との打ち合わせ（主にメールを使用して、細かな打ち合わせを何回か行った。）
実施内容	<p>○同区内にある磯子消防署のイベント「キッズわくわく消防体験塾」において、参加する合計80名以上の児童のサポートを行った。</p> <p>（1）体験学習 地震体験（起震車）・煙体験・はしご車搭乗体験・救助訓練（ロープ渡過）を体験した。</p> <p>（2）見学学習 出動演習・救助訓練の展示を見学学習した。</p>
参加者の主な声	<p>【生徒】</p> <p>○はしご車など、いかに消防署の方が普段大変な現場を経験しているかを感じた。</p> <p>○参加している児童生徒が多く、うまく声掛けをするのが難しかった。</p>
工夫した点	昨年度この企画に参加した防災委員に防災委員会で内容を報告させ、今年度の参加者を募った。
成 果	自分たちが体験して感じたことを発表するといったようなワークショップ形式ではないが、いくつかの体験を通して災害時に起こりうる様々な困難、また、消防員の大変さを感じ取ることができ、キャリア教育にもつなげることができた。
課 題	生徒が主体的に災害について感じ取る機会をもっと持たせるようにしたい。
今後の展開	学校の防災訓練で何ができるのか、将来的には生徒たちに考えさせ、防災委員が企画をできるようにしていきたい。

## 事例7 白山高等学校 「地域主催の訓練に生徒と共に参加」

名 称	鴨居中学校地域防災拠点訓練
日時・場所	平成28年9月4日（日）10時～12時 鴨居中学校体育館
学習のねらい	地域主催の防災訓練に参加し、地域における本校の果たせる役割の可能性を探る。
主 催	地域主催（地震）
参加団体	白山地区連合自治会、白山消防署、白山高校、鴨居中学校
参加人数	自校生徒4名・教職員3名、白山連合自治会205名、白山消防署20名
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自治会との調整（電話）</li> <li>○引率生徒の募集</li> <li>○教職員への周知</li> <li>○消防署との事前打ち合わせ</li> </ul>
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>（1）訓練報告会への参加 前日に行われた救出活動の訓練（チェンソーなどの機器の扱いやHUG（避難所運営ゲーム）などの実践的訓練）の結果報告会への参加。</li> <li>（2）防災組織について 地域防災避難拠点運営、地域避難拠点マニュアル、防災組織についての確認。</li> <li>（3）屋外訓練 消火訓練と応急給水訓練へ参加。</li> </ul>
参加者の主な声	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の方々とのふれあい、防災訓練本部のお手伝いや地域防災の実技実習など有意義な体験ができた。</li> <li>○白山自治会の防災対応を学び、自分の地域がどのような防災措置をとっているのか興味を持つきっかけとなった。</li> </ul> <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日ごろ接する機会の少ない高校生と接することで、高校生を身近に感じ、頼もしさを感じた。</li> </ul>
工夫した点	生徒を実際の訓練に積極的に参加させ、地域の方々との交流を図った。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年は自治会の方と一緒に、参加者の方々にお茶やスリッパ袋の配付をさせていただいた。</li> <li>○屋外訓練に積極的に参加し、消火体験等をした。</li> </ul>
課 題	地域の防災訓練は2日間の日程で実施している。今回は2日目に参加したが、初日の方が生徒が体験できる内容が多いので来年は初日に参加する。
今後の展開	来年は生徒が体験できる内容を多くし、それに伴いより多くの生徒を募る。

## 事例8 舞岡高等学校 「地域主催の訓練に生徒と共に参加」

名 称	「南舞岡小学校」地域防災拠点訓練
日時・場所	平成28年9月24日（土）8時45分～12時 南舞岡小学校グラウンド
学習のねらい	防災訓練の補助活動を通して、災害発生時に地域が高校生に何を求めているのか理解し、地域の一員としての自覚を持たせる。
主 催	地域主催（地震）
参加団体	舞岡台自治会・南舞岡自治会・舞岡第三自治会・メガロン自治会、南舞岡小学校、戸塚消防署、戸塚区役所、横浜市水道局
参加人数	自校生徒13名（生徒会7名・剣道部6名）・教職員3名、自治会224名（4自治会計）、南舞岡小学校243名、戸塚消防署7名、戸塚区役所7名、横浜市水道局2名
事前準備	7月18日 第一回運営委員会 8月21日 第二回運営委員会 9月18日 搬送訓練事前打ち合わせ
実施内容	<p>○地域防災拠点防災訓練として、本校生徒は要援護者の車椅子・リヤカー・担架による搬送訓練に参加した。</p> <p>（1）避難誘導訓練 近隣に声を掛け合いながら避難場所へ移動。避難場所では名簿にチェックをし、自治会ごとに指定された場所に集合。</p> <p>（2）応急援護訓練 要援護者の車椅子・リヤカー・担架による搬送訓練。</p> <p>（3）炊出訓練 移動式炊飯器を使用して白米を炊き出し、おにぎりを作る。</p> <p>（4）備蓄食料喫食訓練 備蓄食料の点検、喫食訓練。受水槽の飲料水試飲訓練。</p> <p>（5）特設電話通話訓練 非常用の特設電話を利用した通話訓練。</p> <p>（6）防災資機材点検 発電機やエンジンカッター、AEDなどの点検を含めた使用訓練。</p>
参加者の主な声	<p>【生徒】 ○今回の避難訓練で私は災害時に地域がどうやって動くのかを知ることができました。災害時には協力できることがあれば協力したいと思いました。</p> <p>【教職員】 ○地域の方々が大勢参加しており、今後とも生徒共々参加したい。</p> <p>【地域（運営委員長）】 ○防災訓練の運営に対する経験が少なかったために、委員各位に適正な伝達ができなかった。今回の反省点を来年に生かしたい。</p>
成 果	地域住民と協力して搬送訓練に参加し、車椅子・リヤカー・担架を使った要支援者の搬送の際の注意点などを学んでいた。
課 題	<p>○実際の災害時には生徒の安全確保が第一であり、地域住民の避難にどの程度関わることができるか、今後検討していくことが必要である。</p> <p>○地域は高齢化が進む住宅地であり、高校生の協力が求められることが予想される。</p>
今後の展開	「南舞岡小学校」地域防災拠点訓練は毎年実施されているので、今後とも地域の一員として、参加・協力していきたい。

## 事例9 生田東高等学校 「地域主催の訓練に生徒と共に参加」

名 称	枳形中学校区 第6回防災訓練 (町会自治会・枳形中学校・生田東高等学校合同防災訓練)
日時・場所	平成28年11月13日(日) 10時~12時 川崎市立枳形中学校体育館・備蓄倉庫
学習のねらい	地域に大災害が起きた際に、地域全体で的確な対応を取れるようにする。
主 催	地域主催(地震)
参加団体	学校周辺6町会自治会、多摩区役所、赤十字ボランティア、議員等
参加人数	自校生徒14名・教職員8名、保護者2名、6町会自治会123名、 多摩区役所1名、赤十字防災ボランティア4人、 県議・衆議院議員代理等3人
事前準備	6月 総務Gによる企画書提出 5月~11月 「避難所運営会議」で実施案作成(全6回実施) 9月 職員会議で報告 11月 地区配備の貯水槽(本校正門付近)確認
実施内容	<p>○本校としては、6回目の地域合同防災訓練を行った。内容は次のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 防災訓練スタッフ紹介</li> <li>(2) 平成28年4月熊本地震に関する防災講話(多摩区役所危機管理担当係)</li> <li>(3) 避難所運営用の間仕切り組立て体験(2班に分かれ組立て)</li> <li>(4) 救急救命措置体験(AED)(3班に分かれ訓練)</li> <li>(5) 備蓄倉庫見学(枳形中学校敷地にある川崎市防災倉庫見学)</li> <li>(6) 応急給水拠点見学(土淵・生田団地各自治会関係者のみ参加)</li> </ol> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">【防災訓練スタッフ紹介】                      【本校生徒等が参加者に防災物品を配付】</p>
参加者の主な声	<p>【PTA保護者】 ○AED講習は専門家によるもので、ためになった。</p> <p>【生徒】 ○「間仕切り」は紙で組み立てることに驚いた。 ○「講演会」で、熊本の避難所は現地で手に入るいろいろなもので組み立てていて驚いた。</p> <p>【教員】 ○ロール紙の廃材を使用してパーソナルスペースを組み立てていたので、実際の災害時のために身の回りのものを見直したい。</p>
工夫した点	従来は「炊き出し」等を実施していたが、今回は「間仕切り組立て体験」・「AED講習」を実施し、より実践的な訓練となった。

成 果	<p>○本校の職員・生徒が、避難所運営用の「間仕切り組立て」を地域の方と共に体験でき、また、プロフェッショナル（赤十字防災ボランティア）の指導により最新の救急救命措置法を体験できたのは、非常に有意義であった。</p> <p>○川崎市立柘形中学校に設置してある川崎市防災倉庫を見学したが、本校の倉庫よりもはるかに大型で、大容量の防災機材を収納可能であった。</p>
課 題	本校の職員対象のAED研修を参加者へより浸透させる方法。
今後の展開	<p>○実際の災害時に、柘形中学校から避難者が本校へ移動してきた場合を想定し、備蓄食料の扱い等、マニュアルの作成が必要である。</p> <p>○そのため、川崎市との連携を進める必要がある。</p>

## 事例10 平塚工科高等学校 「自治会・近隣保育園・学童等と連携した訓練」

名 称	地域連携型避難訓練
日時・場所	平成28年 8月26日（金） 8時45分～11時 ホームルーム（HR）教室・体育館・本校校内・視聴覚室
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地震発生時の初期対応の確認及び移動・点呼・待機を迅速に行うための訓練を行う。</li> <li>○本校生徒においては、近隣保育園・学童保育所の子供の避難の補助を通じ、被災時に自らが支援を行う立場になることを考えさせ、意識させる。</li> <li>○地域の方々においては、本校への避難経路及び時間を確認し、初期対応の改善を行う。</li> </ul>
主 催	学校・地域共催（地震・津波）
参加団体	黒部第一地区自治会、黒部丘西部地区自治会、花水台地区自治会、近隣保育園、近隣学童保育所
参加人数	自校生徒643名・教職員68名、3地区自治会68名、近隣保育園205名、近隣学童保育所54名、その他3名
事前準備	防災検討会議
実施内容	<p>○大津波警報が発令された想定で生徒・職員、3地区自治会、保育園・学童保育所等の合同訓練を実施した。</p> <p>（1）シェイクアウト訓練 各HR教室にて、地震発生時の初期対応とシェイクアウト訓練について説明を受け、動きの確認を行う。 全校放送にて、訓練放送を流し、全生徒一斉にシェイクアウト訓練を行う。</p> <p>（2）避難訓練 津波災害が発生する規模の地震を想定し、安全確保ののち実習棟上部の階への避難を行い、移動・点呼・待機の訓練を行う。 また、1学年生徒が、近隣保育園・学童保育所の子供の手を引き、管理棟4階の渡り廊下への避難経路の確認を行い安全確保の訓練を行う。</p> <p>（3）防災講話 近隣自治会は、避難訓練後に視聴覚室にて平塚防災の方々と地域防災についての懇談会を行う。 ※本校生徒については7月14日（木）に本校体育館を会場とし「高校生と防災」をテーマにした講演会を聴講している。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【園児等の避難誘導】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【4階の渡り廊下へ避難】</p> </div> </div>
参加者の主な声	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○災害発生時には自分が助けられる立場ではなく、児童や保育園児を助ける立場になることはとても責任のあることだと思った。</li> <li>○地震が起きたときに、まず何をすればよいかを考えるきっかけになった。</li> </ul>
工夫した点	○状況に応じた避難場所・避難経路の選択を各学年の判断に任せる。（緊急放送を聞いて行動）

成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○シェイクアウト訓練では、放送に合わせて危機回避行動を取ることができた。</li> <li>○大津波警報が発令したと想定で生徒・職員、3地区自治会、保育園・学童等 合同で訓練ができ、昨年以上に人員点呼、人員確認が迅速にできた。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○災害に対する更なる意識喚起が必要である。</li> <li>○地域の方々と連携した防災活動が必要である。</li> </ul>
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○防災検討会議等で連携した更なる取組みを検討する。</li> </ul>

## 事例11 小田原総合ビジネス高等学校 「中学生・住民等と津波避難訓練」

名 称	津波対応合同避難訓練
日時・場所	平成28年11月9日（水）14時05分～15時20分 本校南館4階・北館3階
学習のねらい	<p>○自校生徒職員だけでなく、隣接する白鷗中学校生徒職員、小田原支援センター、網一色自治会との合同避難訓練を実施することで、地震に伴う津波対応の行動と心構えを学習する。</p> <p>○自校生徒は合同避難訓練のあと、解放空間での帰宅地区別集合訓練を実施する。</p> <p>○災害伝言ダイヤル171の情報も入手することで家庭でも災害時の連絡方法を話し合う必要を学習する。</p>
主 催	学校主催（津波）
参加団体	白鷗中学校、網一色自治会、小田原支援センター、白鷗中学校職員
参加人数	自校生徒657名・教職員54名、白鷗中学校214名、網一色自治会7名、小田原支援センター70名、白鷗中学校職員23名
事前準備	<p>○年間行事を白鷗中学校と調整</p> <p>○1か月前には職員を招いて避難経路の目視と時程を確認</p> <p>○自治会と支援センターには参加の呼びかけ文書を持参し、参加を募った。</p>
実施内容	<p>○平成23年度から、近隣中学、自治会、支援センターと合同訓練を実施している。</p> <p>(1) 津波対応訓練 本校生徒が津波対応のため4階へ集合。近隣自治会と支援センター利用者も北館3階へ避難。自治会と支援センターは中学生避難後退去。</p> <p>(2) 近隣中学生の避難誘導訓練 隣接する白鷗中学校生徒職員も4階へ避難。人数確認後帰校。</p> <p>(3) 帰宅地区別集合訓練 本校生徒は体育館へ移動し、帰宅地区別集合訓練。HRにて伝言ダイヤル171関連の文書を配布。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>【津波対応で4階へ集合】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【帰宅地区別集合訓練】</p> </div> </div>

<p>参加者の 主な声</p>	<p>【本校以外の参加者】 ○白鷗中学校、網一色自治会、小田原支援センターからは「地域の津波避難ビルとして頼りにしている」との声をいただいている。 【本校生徒・職員】 ○生徒の出欠確認に時間がかかりすぎた。 ○本当に本校校舎にいて無事か？屋上へは避難できないのか？ライフ・ジャケットを購入する必要があるのではないか？</p>
<p>工夫した点</p>	<p>○今回は学年ごとに避難経路の要となるところに職員を配置した。 ○実際の災害時もまず駆けつける場所を共通理解した。</p>
<p>成果</p>	<p>○通常水曜日の6時間目を想定し、4階までの避難は混乱なくできた。 ○白鷗中学生、近隣住民、支援センター利用者の避難も大丈夫であった。</p>
<p>課題</p>	<p>○本校生徒の点呼に手間取った。 ○解放空間での帰宅地区別の点呼に時間がかかった。 ○緊張感が薄い生徒がいた。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>○生徒の出欠確認の方法を向上させる必要がある。 ○学校滞在学生用の水や食料を現状以上に充実させる必要がある。</p>

## 事例12 茅ヶ崎高等学校 「大地震・津波を想定した訓練」

名 称	平成28年度防災避難訓練
日時・場所	平成28年8月26日（金）8時50分～9時30分 教室（生徒）、事務室・備蓄倉庫（地域住民）
学習のねらい	○地震発生による避難途中で津波警報が発令され、避難場所が変更になった場合に混乱なく避難できることを目的として実施。 ○近隣、自治会は、生徒の避難訓練とは別に、職員不在の時の校内への入り方や備蓄倉庫の場所を確認することで、深夜などに避難する場合に迷わず対応できることを目的として実施。
主 催	学校主催（地震・津波）
参加団体	本町第一自治会
参加人数	自校生徒1,075名・教職員57名、本町第一自治会25名
事前準備	担当より自治会長に案内を配付し、町内に連絡を依頼
実施内容	○授業中に大地震が発生し、大津波警報が発令されたことを想定した避難訓練を行った。 （1）避難訓練 地震発生時の初期行動後、避難経路により生徒が校庭へ避難する。 （2）災害対策本部設置訓練 災害対策本部を職員室に設置し、被害状況等を報告させる。 （3）避難先変更訓練 その後、大津波警報が発令され、全員3階以上の避難場所へ移動する。 （対策本部→コンピュータ室、保健室→生物室、生徒→3・4階の指定した避難場所）  ○学校近隣の自治会参加者には、職員不在の深夜に避難が必要な場合に備えて、校内への入室方法や備蓄倉庫の場所等の確認を生徒とは別に行った。
参加者の主な声	【教員】 近隣の自治会の方に職員不在時の対応についての的確に把握してもらえた。
工夫した点	地震発生により校庭に避難をする途中で、津波警報が発令されたと想定し、避難場所を校舎上層階に途中で変更を行う点。
成 果	防災への意識向上と、津波時の避難経路が徹底できた。
課 題	様々なケースを想定した避難訓練が必要。
今後の展開	次年度も同様の訓練を実施予定。



### 事例13 茅ヶ崎西浜高等学校 「地域主催の訓練に生徒と共に参加」

名 称	平成28年度 南湖地区自治会連合会 防災訓練
日時・場所	平成28年9月10日（土）12時30分～16時 茅ヶ崎市立西浜小学校南庭及び体育館
学習のねらい	地域の自主防災活動に参加して、災害に対する地域の準備状況を理解し、災害時の救出・救護法を学びながら、防災意識の向上を図る。
主 催	地域主催（南湖地区自治会連合会）（地震）
参加団体	南湖地区の6自治会、茅ヶ崎市立西浜小学校、茅ヶ崎市立西浜中学校、茅ヶ崎市消防署・消防団、茅ヶ崎市役所、茅ヶ崎警察署
参加人数	合計486名 自校生徒9名・教員2名、南湖地区自治会353名、小中職員15名（小6、中9）、茅ヶ崎市立西浜中学校生徒59名、消防署員2名、茅ヶ崎市消防団25名、配備市職員12名、防災対策課6名、茅ヶ崎警察署員3名
事前準備	7月 合同会議の開催通知收受。参加生徒は卓球部員と写真部員に決定 8月 南湖地区合同防災訓練合同会議に出席して訓練内容を確認
実施内容	<p>○南湖地区自治会連合会主催の防災訓練に参加し、救急搬送訓練、初期消火訓練、救出訓練、給食（備蓄食料喫食訓練）等を行う。</p> <p>（1）救急搬送訓練 担架による搬送法、三角巾による止血法の訓練</p> <p>（2）初期消火訓練 消火器による消火、ホースを用いた消火の訓練</p> <p>（3）救出訓練 ロープ結索訓練、チェーンソーによる木材切り出し訓練</p> <p>（4）備蓄食料喫食訓練 カレー（自治会で炊き出し）・アルファ米喫食</p> <p>（5）起震車体験</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【三角巾による止血法訓練】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【チェーンソーを使って木材切断】</p> </div> </div>
参加者の主な声	<p>【生徒・教員】</p> <p>○災害時に必要とされる技能の訓練を体験でき、有意義であった。</p> <p>○自治会の防災リーダーが親切に各訓練内容を教えてくれ、理解が深まった。</p>
工夫した点	参加者を2つのグループに分けるように計画しており、生徒は6つの訓練のうちの3つを体験したが、参加者が大人数の割に流れがスムーズで、退屈にならずに訓練に集中することができた。

成 果	<p>○生徒が実施内容の（１）～（５）の訓練・体験に参加し、救急搬送・初期消火・救出に向けた実習を行うことで、災害時の地域貢献に係る基礎技能と防災に係る意識を高めることができた。</p> <p>○高齢化が進む本地区において、高校生が実施可能な地域貢献を地元自治会の方々に認識していただくことができた。</p>
課 題	<p>○有意義な訓練であり、継続して参加する予定であるが、この訓練は自治会主催であり、本校生徒はほとんどが地元外の出身者であったため、費用負担等を考えると参加者数はある程度限定せざるを得ない。</p> <p>○高校生が災害時にどこまで貢献すべきか、できるのかを検討すべきである。</p>
今後の展開	<p>来年度も本校生徒には訓練への参加を呼びかけ、地域貢献や防災への意識付けと緊急時の対応技能向上を図る。</p>

事例14 厚木東高等学校・厚木商業高等学校 その1 「地域の方々と備蓄倉庫の点検」

名 称	防災倉庫内備品の確認及び機材の取扱い訓練
日時・場所	平成28年7月12日（火） 15時～15時30分 厚木東高校内設置の厚木市防災備蓄倉庫前 （厚木商業と厚木東とで隔年で会場としており、今年は厚木東が会場）
学習のねらい	○厚木市王子地区の避難所として厚木市から指定されている厚木東高校・厚木商業高校敷地内に設置されている防災倉庫内の備品を地域の方々・両高校の生徒・教員が立ち会って確認・点検。 ○取扱い訓練を行い、万一の場合に地域の方々と協力して速やかな対応ができるよう備える。
主 催	学校・地域共催（地震）
参加団体	厚木商業高等学校・厚木東高等学校、王子自治会
参加人数	厚木商業高校生徒30人・教職員4人、厚木東高校生徒60人・教職員4名、王子自治会30人
事前準備	○6月14日に厚木東・商業高校避難所運営委員会総会でこの訓練の開催を決定 ○3者の中で参加メンバー等について連絡調整
実施内容	<p>○8月29日実施の王子自治会との合同避難所開設訓練に先立ち、本校内にある防災備蓄倉庫の点検作業を実施した。</p> <p>（1）防災備蓄倉庫点検 防災倉庫を開け、委員長から備蓄品についての説明を受けた。</p> <p>（2）備蓄食料喫食訓練 点検終了後、消費期限に近く備蓄の予定年限の過ぎた水（500ml）を参加者全員に持ち帰っていただいた。この準備、配付については生徒が対応した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【備蓄倉庫点検】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【備蓄品の説明】</p> </div> </div>
参加者の主な声	<p>【生徒】</p> <p>○普段外側だけしか見ていなかった。中身を知ることができて、より関心が高まった。</p> <p>○地域の方々と協力して防災に取り組むのだということが実感できた。</p>
工夫した点	従来、8月の避難所開設訓練を中心にしてきたが、確認・点検を行うことでより実質的な訓練としたこと。
成 果	<p>○王子自治会の役員の方々、厚木商業高校の防災関係委員生徒、厚木東高校防災委員生徒が集まり顔合わせすることができた。</p> <p>○なかなか見る機会のない倉庫の中身について確認することができ、防災への関心を高めることができた。</p> <p>○生徒に防災意識の高まりや、地域の一員として協働する自覚が生まれるきっかけとなった。</p>

<p>課 題</p>	<p>○この訓練は避難所開設訓練を補完する意味合いの訓練であるが、日程上、十分な訓練時間がとれなかった。 ○取扱い訓練を十分行う時間を確保することが肝要である。 ○避難所開設訓練は、月曜日のため生徒が参加はできなかった。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>来年は昨年までと同様、避難所開設訓練（8月末実施）に多くの生徒が参加できるよう日程を調整し、地域と学校が一体となった避難所運営ができる体制を作っていきたい。その一環として、今回の防災倉庫点検を効果的に位置付けることができる。</p>

事例15 厚木東高等学校・厚木商業高等学校 その2 「地域の方々と避難所運営訓練」

名 称	厚木東・厚木商業避難所開設訓練
日時・場所	平成28年8月29日（月） 8時30分～11時30分 広域避難場所「本厚木カンツリークラブ」
学習のねらい	○厚木東・厚木商業避難所運営委員会は、市の広域避難場所として本厚木カンツリークラブとともに指定されている厚木東高校・厚木商業高校両校の体育館及びその周辺を、隔年に会場として、避難所開設訓練を開催してきたが、今回は「本厚木カンツリークラブ」に集合し、屋外を中心とした訓練を実施し、より実践的な対応ができるよう企図した。 ○被災時に地域と連携できる生徒リーダーを常に育成確保しておく伝統の形成。 ○将来、居住する地区で防災のリーダーとして活躍しうる資質の形成。
主 催	学校・地域共催（地震）
参加団体	王子自治会（1丁目・2丁目・3丁目）、厚木消防署、厚木市役所、厚木商業高校・厚木東高校教職員
参加人数	王子自治会160名、厚木消防署3名、厚木市役所3名、厚木東高校教職員2名、厚木商業高校教職員6名、
事前準備	6月14日 厚木東・商業高校避難所運営委員会総会で訓練の開催を決定 7月12日 厚木東高校で防災備蓄倉庫の備蓄品確認及び点検
実施内容	○厚木東・商業高校避難所運営訓練として、今回は広域避難場所である「本厚木カンツリークラブ」に、厚木市の王子自治会（一丁目、二丁目、三丁目）の方々と厚木東・商業高校教職員が集合し、さまざまな訓練を実施した。 （1）避難所開設訓練 各町内毎に「本厚木カンツリークラブ」まで徒歩で避難する訓練 （2）AED実習訓練 消防署員の指導により、AEDを使用した救命実習及び応急措置法の実習を行った。 （3）非常食・飲料水運搬配給訓練 クラッカー及び水を参加者に配付を行った。 （4）消火訓練（雨天のため実施できず） オイルパンで灯油を燃やし、消火する訓練
	  <p>【徒歩で避難】</p> <p>【AEDを使用した救命実習】</p>
参加者の主な声	【教職員】 今回初めて本厚木カンツリークラブの敷地内に入り、学校に近い入り口があることを知ったのは収穫である。
工夫した点	広域避難場所として指定されているゴルフ場を会場として開催することで、この場所が今後地域の人々に避難場所としてしっかりと認識されるよう配慮したこと。

成 果	<p>○天候が不安定の中で行われたが、避難所の速やかな設営や地域住民の避難訓練が行え、有意義な時間を過ごす事ができた。</p> <p>○A E Dの実演実習が円滑に行われた。</p> <p>○広域避難場所であるゴルフ場を会場としたことは、実際に足を運び、場所を確認できたという点で、重要な成果であった。</p>
課 題	<p>○今回は平日であったため、厚木東高校・商業高校とも生徒の参加ができなかったため、次年度以降は日程を調整し、生徒が必ず参加でき、地域住民との連携を深めることができるよう工夫したい。（ただし、この訓練に先立って7月12日に厚木東高校で、生徒も参加して備蓄倉庫の点検作業は実施している。）</p> <p>○途中から雨模様となったため、準備していた消火訓練などを実施することができなかった。</p> <p>○集合場所はゴルフ場の一角で、思いの外傾斜があり、車イスの方や足腰の弱い方もいるため、場所を検討する必要がある。</p>
今後の展開	<p>従来どおり、生徒が必ず参加でき、地域住民との連携を深めることができるようにする。</p>

## 事例16 伊勢原高等学校 「地域の方と避難訓練・喫食訓練」

名 称	地域と連携した防災訓練
日時・場所	平成28年11月10日（木）14時25分～16時25分 ホームルーム（HR）教室・グラウンド・調理室
学習のねらい	本校は広域避難所に指定されている。グラウンドに避難する場合は、地域住民と本校生徒が同時避難となるため、場所の確認をするとともに地域住民との訓練を通じて防災意識の向上を図る。
主 催	学校主催（地震）
参加団体	片町第二自治会、伊勢原消防署
参加人数	自校生徒801名・教職員50名、片町第二自治会15名、伊勢原消防署2名
事前準備	○伊勢原消防署との打ち合わせ ○片町第二自治会への訓練への参加依頼
実施内容	<p>○大規模地震の発生により火災が起きたことを想定し、グラウンドに避難及び住民も避難してくることを想定した集合場所の確認、水消火器による消火器取扱い訓練を実施する。その後、近隣住民の方々と喫食体験訓練を行う。</p> <p>（1）避難訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火災が起きたことを想定し、グラウンドに避難・クラスごとの人員を確認する。</li> <li>・同時に近隣自治会の住民も本校グラウンドに避難してくることを想定して集合場所の確認を行う。</li> </ul> <p>（2）消火訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊勢原消防署員の指導で水消火器による消火器取扱い訓練を実施する。</li> </ul> <p>（3）喫食体験訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その後、1年生は教室で喫食体験訓練を行う。また、防災委員と参加の近隣住民の方々とアルファ米の喫食体験訓練を行う。</li> </ul>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【消火器取扱い訓練】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【近隣住民との喫食体験訓練説明】</p> </div> </div>
参加者の主な声	<p>【地域】</p> <p>○高校生といっしょに訓練ができて良かった。地域には高齢の人も多いので、いざという時は若い人の力を貸してほしい。</p> <p>○防災訓練に参加して学校内の様子がわかって良かった。</p>

工夫した点	近隣の自治会は、片町第二自治会と田中自治会があるので、全日制と定時制で毎年両自治会と交互に組み合わせを替えて実施している。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自治会からの参加者は15名であったが、グラウンドで地域住民を含めた集合場所の確認ができた。</li> <li>○1年生での喫食体験訓練に加え、地域住民と防災委員とでのアルファ米を使った喫食訓練を通じて地域住民との交流を図ることができた。</li> </ul>
課 題	クラスごとの人員確認の時間にばらつきがあったので、今後も生徒の意識を高め、全員の人員確認の時間を短縮したい。
今後の展開	今後も毎年近隣の自治会と連携した防災訓練を継続的に行う。

## 事例17 有馬高等学校 「市町村・消防と連携し1年生全員が訓練」

名 称	防災体験訓練
日時・場所	平成28年9月23日（金）15時30分～18時10分 体育館・格技場・グラウンド等
学習のねらい	○生徒の防災意識の高揚を図る。 ○地域と連携して、地震等発生時の対応に備える。 ○生徒の社会貢献への意識を醸成する。
主 催	学校・地域共催（地震）
参加団体	海老名市市長室危機管理課、海老名市消防署、PTA保護者
参加人数	自校生徒318名・教職員23名、PTA保護者4名、海老名市役所5名、海老名消防署15名
事前準備	○海老名市危機管理課・消防との打ち合わせ。 ○1学年保護者に通知。
実施内容	<p>○毎年1年生全員参加で、海老名市危機管理課、海老名市消防と連携し協同で防災体験訓練を行っている。</p> <p>(1) 消火訓練、救護訓練（AED・応急処置・負傷者搬送）  (2) 起震車体験、（煙ハウス体験…今回は雨天のため中止）  (3) バルーン投光器作動体験  (4) レスキューキッチン、非常食（アルファ米）喫食体験  (5) 簡易トイレ説明</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【起震車体験】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【AED体験】</p> </div> </div>
参加者の声	<p>【生徒】</p> <p>○ふだん体験できないこと、初めて体験することがいくつもあり、とてもよい勉強になった。</p> <p>○災害が起こった時の対応の仕方がわかった。慌てず適切に行動できるようにしたい。</p> <p>○今日学んだことを、災害が発生した時に役立てたい。</p> <p>○AEDや応急処置、負傷者搬送など、皆で協力することが大切だとわかった。</p> <p>○災害時には他人任せではなく、自分たちで考えて行動することが大切だと思った。</p> <p>○非常食や防災用品を備えたり、家族で話し合っておくことが必要だと思った。</p> <p>【教職員】</p> <p>○内容はとてもよかった。各体験ブースの移動で場所・順番などを生徒がもう少しスムーズに動けるようにしたほうがよい。</p>

工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各クラスを20人ずつの2班に分け、時間を区切りローテーションで5～6種類の内容を体験できるようにした。</li> <li>○体験訓練を始める前に、今日の訓練の目的や意義を体育館で生徒全員に話した。</li> <li>○消防署員に各体験箇所についてもらい、方法や注意点を説明してもらった。</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○起震車体験や消火器の使い方、AED、応急処置など生徒にとっては初めて体験する内容が複数あり、生徒にとって貴重な経験ができた。</li> <li>○生徒一人ひとりが防災への意識を高め、備え・対策を考えるよい機会になった。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○種目により所要時間に差が出た。AED体験に時間がかかった。</li> <li>○人数と時間の関係から全員がすべての内容を実際に体験することが難しく、代表者が体験し、他の生徒は見学する種目があった。</li> </ul>
今後の展開	<p>今回の課題を検証し、よりよいものに改善していく必要がある。</p>

事例18 津久井高等学校（定時制） 「夜間の停電を想定した宿泊避難訓練」

名 称	宿泊避難訓練
日時・場所	平成28年7月15日（金）18時～18時30分 体育館 平成28年7月15日（金）19時15分～7月16日（土）9時 3-A・2-A教室
学習のねらい	○夜間の在学時間帯における大規模地震、台風などの災害発生に際して帰宅困難となった場合を想定し、校内での宿泊を経験することにより、万一現実となった時に役立つようにする。 ○生徒、教職員が適切な対応をとるために防災用品の使用法などの訓練を実施して防災意識を高めるとともに、互いに助け合い命を大切にする意識を高める。
主 催	学校主催（地震）
参加団体	中村自治会
参加人数	自校生徒【避難訓練】46名【宿泊避難訓練】12名・教職員17名、 中村自治会2名、学校評議員1名
事前準備	○職員の組織、役割分担、指導形態の確立 ○水、食料、毛布、簡易トイレ等の準備 ○生徒の参加動向の事前掌握 ○使用場所等に関して全日制との連絡調整 ○防災学習にかかる外部への協力要請 ○帰宅班の再編成と安否確認方法の決定
実施内容	○地震により停電が発生した想定における避難訓練を実施した。 避難訓練終了後、1学年生徒と自治会の方・評議員が参加して宿泊訓練を行った。 (1) 避難訓練 全校生徒は、各教室でシェイクアウト訓練実施後、体育館へ避難した。 さらに、防災学習として自家発電機の操作方法を研修した。 (2) 宿泊訓練 生徒は1学年のみが残留し、4班に分かれて災害図上ゲーム（D I G）および簡易ベッド、簡易トイレの組み立ておよび解体を研修する。 その後、指定された教室で就寝用マットを用いて男女別に就寝。 (3) 備蓄食料喫食訓練 非常用食品（缶パン、アルファ米）を朝食として試食する。 (4) 方面別帰宅訓練・保護者へ引き渡し訓練 生徒は自宅の方面ごとの班で帰宅し、到着後に電話で無事帰宅を学校に報告する。 一部の生徒は保護者に学校まで迎えに来てもらい、生徒一人ひとり確実に引き渡しする。
	 
	<p style="text-align: center;">【D I G訓練】</p> <p style="text-align: center;">【宿泊場所設置】</p>

<p>参加者の 主な声</p>	<p>【生徒】 ○災害時の食事、睡眠、流れなどについて体験的に把握することができた。 【教職員】 ○生徒がテキパキと行動して、計画通りに進んでいてよかったが、反面、訓練というよりもレクリエーション的に楽しんでいるように見えた。 ○訓練の一環として、災害図上訓練（DIG）を取り入れたことはとてもよかった。</p>
<p>工夫した点</p>	<p>防災学習の中で生徒・職員・地域住民の三者が協力して学習する機会をつくるように、職員会議や5月の地震避難訓練および当日の全校避難訓練の講話で高校と地域の協力の必要性を伝えるなど、事前に働きかけをした。</p>
<p>成 果</p>	<p>○発電機を用いた訓練は初めてであり、事前に発電機の操作確認を防災担当以外の職員もともに実施した。 ○1学期中に2度目となる今回の訓練では、今年度着任した教員や新入生が前回よりスムーズに動くことができた。 ○職員が災害時に備えて食料その他の備蓄品の把握や使用法の確認をするとともに、校内宿泊のイメージを持つことができた。</p>
<p>課 題</p>	<p>○避難誘導を指示する前に、避難を開始させるクラスがあり、シェイクアウト訓練で安全確保行動を行うということが一部担任に理解されていなかった。 ○計画は昨年度から始めていたが、初めての行事のため日程や内容等の実施計画策定に時間がかかった。 ○全生徒が複数日の宿泊となった場合には備蓄は不十分であり、地域との連携等を図る必要がある。 ○1学年のみの参加であり、かつ1学年が少人数であったため、職員が目が行き届いたが、全学年での実施や生徒数が増えた場合に、今回のように手厚い指導を行うことは難しい。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>「災害規模」や訓練時における「具体的環境レベル」をどの程度に想定するかなど、内容の見直しをしたうえで訓練実施の是非を検討する。</p>

## 事例19 鶴見養護学校 「防災キャンプで避難所設営体験」

名 称	つるみ防災キャンプ
日時・場所	平成28年9月3日(土) 15時～19時 バスロータリー・体育館・校舎内
学習のねらい	○避難所体験や防災に関する展示を通し、児童生徒、保護者の防災意識を高める。 ○避難所の設営を通じて、教職員の防災に対する実践力を高める。 ○地域との連携を通して、障害のある子どもたちについて広く知っていただき、共生社会の実現につなげる。
主 催	学校主催(地震)
参加団体	横浜市鶴見消防署駒岡消防出張所、鶴見消防団第7分団、鶴見養護学校PTA、鶴見養護学校後援会、駒岡地区住民、NPO法人 神奈川県災害ボランティアネットワーク、NPO法人とみおか子ども未来ネットワーク、復興ボランティアタスクフォース、NPO法人 チャレンジドサポートプロジェクト
参加人数	172名 [ 自校生徒44名・教職員40名、保護者・家族64名、駒岡地区住民4名、横浜市鶴見消防署職員7名、鶴見消防団第7分団2名、ボランティア11名 ]
事前準備	4月 企画案作成 5月・6月 参加団体への協力依頼、参加依頼 7月・8月 駒岡消防出張所長との打ち合わせ 8月 学校ホームページ掲載や神奈川県記者発表での広報活動
実施内容	<p>○本校としては初めて避難所設営体験訓練を実施した。 ○本校は指定避難所として指定されていないが、災害時には避難所に未指定の学校においても、自校生徒だけではなく、地域住民も学校に避難してくる事を想定して実施した。</p> <p>(1) 避難所設営 何も設置していない状態から、段階的に避難所を設営していく訓練を行った。受付の設営から始め、トリアージの実施、誘導、サバイバルシートの配付。</p> <p>(2) 段ボールハウスづくり 段ボール板を使い、パーティションの設営を参加者と共に行った。段ボールベッドの組み立ても実施した。</p> <p>(3) 展示コーナーの設置 災害被害の写真展示や家庭向けの災害時の非常トイレの展示。</p> <p>(4) 煙体験 煙の中でハンカチで口を押さえながら歩いた。</p> <p>(5) 災害時伝言ダイヤル 実際に携帯電話を使って災害時伝言ダイヤルの使い方を経験した。</p> <p>(6) 消火訓練 水消火器を使った消火訓練を行った。</p> <p>(7) 毛布担架 毛布と竿を使った担架を作る体験を行った。</p> <p>(8) 簡易調理 カセットコンロを使って、救援物資のカップ麺を調理して食べた。</p>
	  
	<p>【サバイバルシートの配付】</p> <p>【ダンボールハウスづくり】</p> <p>【消火器訓練】</p>

<p>参加者の 主な声</p>	<p>【保護者】  ○我が子の避難所における様子がわかってよかった。  ○家庭に戻って防災対策を考える良いきっかけとなった。  ○自分の子どもは避難所では過ごせないと思っていたが、場面によっては意外と落ち着いて過ごせることがわかって大いに安心した。  【教員】  ○実施した意味はあったと思う。あえて不快指数の高い夏日に実施したので、教員が知恵を出し合う良い経験となった。  ○このような機会がなければ、なかなか発電機を稼働する事はないと思う。  ○非常事態に備え、更に物品の整備や補充を考えていかねばならないと思う。</p>
<p>工夫した点</p>	<p>○過ごしやすい秋などの季節ではなく、あえて気温が高い季節に実施した。  避難所における暑さ対策や、蚊の対策の重要性を再認識した。  ○地震による影響で、停電した想定で実施した。  日没後の暗さや、発電機の稼働など、避難所の緊張感を演出することができた。  ○参加者や教員が自由に記入できるボードを設置した。  避難する立場や、避難所を運営する立場から、様々な意見を聞くことができた。  ○分教室生徒4名に、運営スタッフボランティアとして参加してもらった。</p>
<p>成 果</p>	<p>○避難所体験に対する保護者のニーズが、いかに強いかがわかった。  ○様々な反省点を内外部から頂き、人員配置の工夫や、各ブースの改善すべき点等がわかった。また、避難所設営を経験することによって、学校として更に必要な物品も判明した。  ○運営スタッフとして参加した分教室の生徒自身が、ボランティア活動を経験したことで、実際の災害時に自分ができることがあればやりたいと言っていた。</p>
<p>課 題</p>	<p>○初めての避難所設営訓練の実施で、慣れない職員がほとんどで、避難所の設営における様々な点で改善すべき点が具体的に判明した。  ○更に多くの地域の方々に参加してもらいたい。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>○毎年実施して、災害訓練を通して、周辺地域との連携を深めていきたい。  ○規模を大きくして、避難所で1泊する訓練を模索したい。</p>

## 事例20 みどり養護学校 「防災交流フェスタで避難所体験」

名 称	第3回 防災交流フェスタ ～ みんなでぼうさい
日時・場所	平成28年11月5日（土）9時45分～12時30分 体育館・音楽室・食堂・生徒玄関
学習のねらい	○「防災」 みんなで避難所体験をしてみよう ○「交流」 地域と「顔の見える関係」をつくろう ○「フェスタ」 家族・友達と楽しみながら防災意識を高めよう
主 催	学校主催（地震）
参 加 団 体	東鴨居中学校、東本郷小学校地域防災拠点運営委員会、 東本郷連合自治会、日本防災士会横浜支部、みどり養護学校PTA 緑消防署鴨居出張所、横浜市水道局青葉水道事務所 社会福祉法人かたるべ会、NPO法人ごぼうハウス 社会福祉法人同愛会ぶなの森
参 加 人 数	自校生徒・保護者91名・教職員50名、東鴨居中学校34名、東本郷小学校3名 協力団体12名、地域55名、事業所10名、その他5名 計260名
事 前 準 備	6月 企画案作成 6～9月 協力依頼、参加依頼 9・10月 ちらし、ポスターでの広報活動
実 施 内 容	<p>○障害のある人もない人も、いっしょに体験を通して学ぶ</p> <p>(1) 避難所設営訓練・生活体験 スチレンボードを使用してパーティションのある居住スペースを作る</p> <p>(2) 簡易トイレ設営体験 ペット用トイレシートや猫砂などを活用して代用トイレを作る</p> <p>(3) 災害非常食体験 アルファ米、乾パンなど調理体験・試食をする</p> <p>(4) 地震体験 起震車に乗り震度7を体験する</p> <p>(5) 暗闇体験 暗闇の中で、手回しランタンやラジオ、トイレの体験をする</p> <p>○地域、福祉、特別支援学校がそれぞれの活動を通してつながる</p> <p>(1) 東鴨居中学校吹奏楽部演奏 (2) 福祉事業所製品販売 (3) 本校生徒会 熊本地震復興募金 (4) 東本郷小学校地域防災拠点避難訓練報告 (5) 横浜市水道局災害対策展示</p> <p>○活動を通して障害理解を深める</p> <p>(1) パラスポーツ体験（ボッチャ） (2) 本校PTAによる防災ゲーム (3) 防災ウォークラリー</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【居住スペース作り】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【災害対策の展示】</p> </div> </div>

<p>参加者の 主な声</p>	<p>【生徒】 ○暗闇体験がドキドキして面白かった。 【保護者】 ○毎年、体験するものが増えて楽しいです。 ○楽しみながら防災を学びました。 【地域】 ○すばらしい企画だと思います。もっと広がっていくとよいと思いました。 ○地域防災拠点の訓練でも参考にしたいことばかりでした。</p>
<p>工夫した点</p>	<p>○防災をより身近に感じることができるよう、防災体験の充実を図った。 ○生徒の取組として、熊本地震復興募金活動を行った。</p>
<p>成 果</p>	<p>○本校児童生徒保護者の参加が増えた。 ○地域防災拠点避難訓練に本校教職員が防災交流フェスタでの経験を生かして居住スペース設置の指導にあたるなど、地域との連携が深まってきた。 ○継続することで、防災について関心を持つ人が増えてきた。</p>
<p>課 題</p>	<p>○地域防災拠点との連携をより深めていく。 ○防災交流フェスタで実施した内容を、授業場面に生かす必要がある。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>本校は避難所に指定されていないが、実際の災害に対応できる防災交流フェスタを実施したい。</p>

## 事例21 武山養護学校 「地域・学校連携防災デーへの参加」

名 称	地域・学校連携防災デー
日時・場所	平成28年7月1日（金）9時50分～11時10分 武山養護学校各教室、武山中学校グラウンド
学習のねらい	大地震の発生から、安全確保・一時避難・震災避難所（武山中学校）への避難と一連の動きを安全かつスムーズに行うことができるようにする。
主 催	地域主催（地震）
参加団体	横須賀市立武山中学校、横須賀市武町内会、横須賀市南消防署
参加人数	自校生徒155名・教職員110名、武山中学校630名、横須賀市武町内会50名、横須賀市南消防署約10名
事前準備	○町内会、中学校、南消防署、武山養護の各担当者が集まった打ち合わせ会に出席し、日時・内容及び本校児童生徒の参加体制を確認。 ○校内における地震想定避難訓練と地域・学校連携防災デー参加への流れを職員会議で周知。
実施内容	○大地震を想定した地域連携の避難訓練を行った。 （1）避難訓練 校内でシェイクアウト実施後、近隣の広域避難所である武山中学校まで避難を実施した。 （2）水消火器訓練 武山中学校生徒及び本校小・中学部6名による水消火器消火の訓練を行った。 （3）消防署員からの講話 避難時のあわてない速やかな移動が必要。東日本大震災後、地元中学生の働きがクローズアップされてきた。この防災デーも中学生の動きに期待するため始まったことです。今後も取り組んでいきましょう。
参加者の主な声	【主に武山養護学校からの参加者の声】 ○特別支援学校に通う、見通しを持つことが苦手な児童生徒にとっても、年に一度経験することはよいことだと思った。 ○水消火器訓練に参加することで、本校の児童生徒が参加していることを知ってもらえる良い機会となった。 ○水消火器訓練以外にも、消防署員のはしご車による校舎屋上からの救出パフォーマンスがあり、多くの児童生徒には興味をそそる内容だった。
工夫した点	○武山養護学校から武山中学校への移動経路上に、本校職員による安全誘導員を配置した。 ○武山中学校グラウンドへの移動をスムーズに行うことができるよう、グラウンドへの入り口を二か所（正門・グラウンド通用門）設けるようにした。
成 果	○東日本大震災を契機に実施されている「地域・学校連携防災デー」に参加することで特別支援学校の存在を地域に意識してもらうことができている。 ○6月実施の火災想定避難訓練を含め、全学部の児童生徒が水消火器訓練に参加することができ、武山養護学校の児童生徒が同じ地域にいることを知ってもらえることができた。
課 題	猛暑日での実施となり、本校児童生徒の体調を考慮しながらの参加形態を今後も検討する必要がある。
今後の展開	近隣の武山中学校が主体となり実施している行事であり、本校の参加形態をよく考慮していただいている。今後も連携しながら参加実施を検討していきたい。

## 事例22 鎌倉養護学校 「地域の方々との防災訓練・校内防災ツアー」

名 称	平成28年度 防災訓練・防災ツアー
日時・場所	平成28年9月14日（水）16時～17時 生徒昇降口
学習のねらい	○災害時の対応について考える。 ○防災物品や非常食、濾水器、発電機、消火器の場所や取り扱い方を確認し、災害時に備える。
主 催	学校主催（地震）
参加団体	玉縄台自治会、関谷スカイハイツ自治会、玉縄消防署
参加人数	自校教職員24名、玉縄台自治会2名、関谷スカイハイツ自治会2名、玉縄消防署3名
事前準備	○濾水器の定期点検（業者依頼） ○消火ホースの借用（業者依頼）
実施内容	○非常時の対応として、消火栓からの放水訓練と防災資機材の確認を行った。  （1）消火栓を使用した放水訓練 消防署の指導のもと昇降口で屋内消火栓を使用した放水訓練を実施した。  （2）発電機・濾水器等の実地講習訓練 発電機（ガソリン発電機・カセット発電機・充電式発電機）、濾水器及び投光器の実地講習を実施した。  （3）防災ツアー 校内を巡りながら発電機、投光器、濾水器等の防災物品の確認、防災倉庫の非常食の確認を行った。
参加者の主な声	【教職員】 ○消火ホースを使った消火訓練は、実際の水圧を感じることができた。また、消防署の方に厳しく指導していただき、良かった。 ○実際に地震が起きたら、防災機器や食料を入れてある倉庫は大丈夫なのか不安だ。（建物が崩壊したら取り出せなくなるのではないか）
工夫した点	参加者を2グループに分け、全員が実施したり機器に触れられるようにした。
成 果	○屋内消火栓の使い方を知ることができた。 ○地域の方と情報交換し、福祉避難所としての役割を再確認することができた。 ○発電機、濾水器の使い方を周知することができた。
課 題	○校内にある発電機等はどのくらいの時間使用することができるのか、確認する必要がある。 ○今後も定期的に地域の方と情報交換をし、福祉避難所として最適な場所となるよう検討していく必要がある。
今後の展開	今後も機会があれば、地域の方に参加していただき、交流を図りながら情報交換の場としていく。

## 事例23 岩戸養護学校 「1学年を対象とした校内宿泊学習」

名 称	防災を目的とした校内宿泊学習
日時・場所	知的障害教育部門就労支援コース1学年 平成28年7月1日(金)～7月2日(土) 知的障害教育部門自立支援コース1学年 平成28年10月7日(金)～10月8日(土) 肢体不自由教育部門1学年 平成28年10月13日(木)～10月14日(金)
学習のねらい	○防災、安全に対する意識を育成する。 ○災害時を想定して、学校に泊まる経験をする。
主 催	学校主催(地震)
参加団体	横須賀市南消防署、保護者
参加人数	自校生徒51名・教職員30名、保護者41名、横須賀市南消防署4名
事前準備	実施計画作成時に横須賀市南消防署との間で、訓練内容及び防災講話についての打ち合わせ。
実施内容	○1学年が防災を目的とした校内宿泊学習を行い、これに合わせて「東海地震注意報」が発令された想定で、緊急時生徒引き渡し訓練を実施した。 (1) 消火訓練 消防局職員の協力を得て水消火器を使用した消火訓練を実施した。 (2) 防災講話 消防局職員による震災についての講話を聴いた。 (3) 避難所整備訓練 段ボールを使い避難所設営体験を実施した。 (4) 非常食喫食 アルファ米、ポテトサラダ缶を喫食した。 (5) ナイトウォーク 夜間にヘッドランプを使用し、校舎内歩行を行った。 (6) 避難所宿泊体験 段ボールで区画を作り、防災用敷マット・寝袋を使用して就寝した。 (7) 緊急時生徒引き渡し訓練 保護者へメールを配信し引き渡しを実施した。 (8) D I G訓練 宿泊学習の事前学習においてD I G訓練の手法を活用した防災マップ作りを行った。
参加者の主な声	【保護者】 ○宿泊学習から引き渡し訓練という一連の流れで、生徒たちも私たちも非常に良い訓練ができたと思います。訓練で経験しているといかないとでは、大きく違いが出ると思いますので、今後に活かしてくれればよいと思います。 ○現在、日本の様々な所で地震が起こっており、いつ関東で大きな災害があるかわからないので、今回の訓練はとても良い体験になったと思います。また、この機会に親子で災害についての話ができただ事大変良かったです。  【教員】 ○D I G訓練(防災マップ作り)では、生徒が協力して取り組む姿が見られた。

工夫した点	<p>○宿泊学習の目的が明確になるよう、事前学習においてD I G訓練・避難所整備訓練等を行った。</p> <p>○宿泊学習においては体験的な学習を行った。</p>
成 果	<p>事前学習ではD I G訓練の手法を取り入れた防災学習を行い、宿泊学習においても実際の災害場面を想定した内容を盛り込んだため、生徒の防災意識を高めることができた。</p>
課 題	<p>停電や断水の場合の対応等、より実際の災害時の状況を想定した訓練を取り入れる必要がある。</p>
今後の展開	<p>○それぞれの部門・コースの生徒の実態に合った学習及び訓練内容を用意することで、生徒の防災意識の向上を図りたい。</p> <p>○今後も継続して実施し、保護者と連携して安全で安心な学校づくりに努めたい。</p>



■ D I G ■

(災害図上訓練)

## 事例1 旭高等学校

名 称	授業を利用した災害図上訓練（D I G）
学習のねらい	○「今日、学校で」突然の災害に出会ったときを想定して、一人ひとりが安全な帰宅ルートを把握する。 ○同時に、Web上にある情報やプログラムソフトの活用方法についての理解を深める。
日時・場所	平成28年6月～7月 コンピュータ室
実施教科等 (実施時間)	情報科 (実施時間 50分)
参加人数	生徒318名 (1年全クラス)
ファシリテーター	自校の教員(情報科)
事前準備	○google mapでのルートの表示及び加工法の研究 ○紙ベースの旭区ハザードマップの用意 ○旭区以外のハザードマップはホームページから画面上で確認 ○防災メモの内容確認及び必要事項の追加 ○さまざまな防災関係の情報収集
実施内容	○情報科に授業の中で、「google map」によって、自宅までの徒歩経路を地図上に出し、ハザードマップを用いながら洪水や内水、がけ崩れ等の危険地帯を避けるルートを考えさせた。変更後のルートを印刷させて重要な地点に印をつけた。 ○速度文(word)によって、東日本大震災の記事を元にした文である「風の電話」について考えさせた。
参加者の 主な声	【生徒】 ○google mapを使ったルート確認は面白い。 【教職員】 ○最後に10分間で、入力(速度文としての入力練習を兼ねる)した「風の電話」が素晴らしい。 【生徒・教職員】 ○その他の情報(「東京マグニチュード8.0」)が気になる。 注:「東京マグニチュード8.0」は2009年に放送されたアニメーションで、東京でマグニチュード8.0の地震が起こった時の姉弟の都心から自宅までの避難を描いたもの。
工夫した点	○訓練の重要性を理解させ、個々の生徒の作業での取組みを充実させた。 ○ICTの有用性を理解し、その効果的な使用法を体感させた。 ○授業の後も、個人的に調べたり、家族で話し合ったりできるように教材を作った。
成 果	○普段、コンピュータ操作方法の説明など、一方通行の授業になりがちなか中で、机上防災訓練は一人ひとりが、自分のこととして、授業をとらえていた。 ○コンピュータに使われるのではなく、自分のためになる情報をいかにして手に入れるか、その方法論を示せた。
課 題	○時間的に余裕がなく、試験前の限られた時間数では厳しかった。 ○提示したい項目が多く、また生徒の考えも聞きたいところが、上滑りしてできなかった。
今後の展開	授業時間に組み込むため、時期や教材の精選を行い、少なくとも2～3時間にしたい。

## 事例2 舞岡高等学校

名 称	図上防災訓練
学習のねらい	○学校周辺地域の状況を知り、災害時の活動に役立つ知識を身につける。 ○活動を通して、防災意識を高める。
日時・場所	平成28年6月27日（月） 各ホームルーム（HR）教室
実施教科等 （実施時間）	ロングホームルーム （実施時間 50分）
参加人数	生徒318名（全校）・教員24名
ファシリテーター	自校の教員（学校管理グループ）
事前準備	教員対象に、学校周辺の地図とハザードマップを活用した事前研修会を実施。
実施内容	○各クラスを6班に分け、学校周辺の地図を使用して災害図上訓練を実施した。 ○各グループ、地域別に、ある地点での災害遭遇を想定し、地域内の指定避難所へ防災マップ上の施設の支援を考慮しながら向かう経路を考察する。
参加者の 主な声	【生徒】 ○周囲の地理を知ること、地域の特徴や災害時の対応を再確認でき、万が一災害に見舞われた場合に役に立つと感じた。また、将来安全を守る仕事に就きたいと考える身として、非常に参考になった。 【教職員】 ○生徒はグループで協力してよく取り組み、防災意識を高めあっていた。 ○来年度は話し合いのテーマ設定を工夫し、さらなる充実を図りたい。
工夫した点	○学校周辺を6つに区分し、グループごとに違う地図を使用して図上訓練を実施した。 ○その後、グループから発表を行い、学校周辺全域の状況を把握させた。
成果	災害時の危険箇所や利用可能施設等が確認できた。
課題	班により作業の進行状況に差が生じてしまったクラスでは、発表を行うことができず、学校周辺全域の状況をクラス全員で共有できなかった。
今後の展開	今年度の反省点を踏まえ、来年度も実施し、生徒の防災意識を高めていく。

### 事例3 松陽高等学校

名 称	平成28年度 防災教育 災害図上訓練（D I G）及びいっせい防災行動訓練（シェイクアウト）
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ活動を通じて、学校周辺の危険箇所や災害時に有用な施設等を地図から探し、災害時の活動に役立つ知識を身に付ける。</li> <li>○活動を通じて災害時をイメージし、生徒が自ら気づき、自ら解決する力を育て、日常の自主防災意識を高める。</li> <li>○メンバーとのコミュニケーションを通じて、各々の個性を理解し、相互理解を深める。</li> </ul>
日時・場所	平成28年8月29日（月）15時25分～16時15分 ホームルーム（HR）教室
実施教科等（実施時間）	ロングホームルーム （実施時間 50分）
参加人数	自校生徒735名・教職員56名
ファシリテーター	自校の教員（担任・副担任）
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○8月26日（金）始業式後、担当者による生徒への予告・必要事項連絡</li> <li>○管理グループによる物品準備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・教員へのD I G配付資料</li> <li>・各クラス6枚の防災地図（6グループ用）</li> <li>・6色のカラーペン</li> <li>・まとめ用の用紙</li> </ul> </li> </ul>
実施内容	<p>○冒頭で「いっせい防災行動訓練（シェイクアウト）」を実施した。 ○全校一斉に各クラスで6グループを作り災害図上訓練（D I G）を実施した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【各グループみな真剣に】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【災害時役立つところは】</p> </div> </div>
参加者の主な声	<p>【職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒は日常の学習で、グループワークに親しんでいるので積極的に取り組んでいた。</li> <li>○50分の枠内であったが、各班の発表までできたクラスもあった。</li> <li>○3年生の方がてきぱきとできていた。</li> <li>○カラーペンが不足していたが、それぞれの色に意味を持たせて工夫していた。</li> <li>○海岸近くなど別の場面を想定したD I Gもやった方が良かった。</li> </ul> <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○今まで知らなかった学校のまわりの様子がわかり良かった。</li> <li>○コンビニやドラッグストアもいざというときには役に立つと思った。</li> <li>○飲料水だけでなく、消火のためなどの水の確保のために川や遊水地の場所を把握しておくことは大切だと思った。</li> </ul>

工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全校生徒対象に1時間でDIGを実施するために、事前に「eかなマップ」より松陽高等学校を中心とする地図A3版8枚分の半分を貼り合わせ、残り1カ所だけ貼り合わせればよい地図を用意した。</li> <li>○全員が参加できるよう各クラス6グループ（1グループ6・7人）で行った。</li> <li>○事前に各クラス担任を通して、DIGの案内プリントを教室掲示し、のりや蛍光ペン6色など、身近な文房具の中から、各グループで授業に持参するよう指導した。</li> <li>○夏休み明けの最初のロングホームルームの時間を利用して実施した。</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校で初めて全校生徒が一斉に実施するDIGだったが、机を6個ずつ組み合わせ6～7人のグループ作業で、学校周辺の地図を見ながら色分けを進め、和やかな雰囲気の中にも真剣な表情でDIGに取り組んでいた。</li> <li>○学校周辺の環境を読み取り、災害時の学校の安全性や、避難の状況などを話し合いながらまとめることができた。</li> <li>○8月下旬の夏休み明け最初のロングホームルームを利用したので、9月1日の防災の日に先立ち、様々な防災関連の報道とともに防災、減災意識を高めるきっかけとなったように思われる。</li> <li>○DIGの地図の色分け・書き込みや、話し合いながらまとめたグループごとのレポートのいくつかを文化祭で展示発表した。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1時間でDIGを全校生徒に一斉に授業で取り組むためには、事前に「eかなマップ」より地図A3版8枚分をのり付けした地図を各クラスで事前に6枚用意できるようにしておくスムーズに行く。（本年度は管理渉外グループで事前に用意したが、大変な負担であった。）</li> <li>○1年に1回DIGを全学年で実施するためには、3年間で3つの地区の地図の用意が必要であると思われる。たとえば1年目は本校（松陽高校）、2年目は練習試合先の海から近い学校、3年目は大学の合同説明・相談会で大学等に行っていた時を想定して、各地域の特徴を踏まえたDIGを体験させるとさらに充実すると考えられる。</li> </ul>
今後の展開	さらに計画的に実施するとともに内容を充実していきたい。

## 事例4 百合丘高等学校

名 称	生徒による学校周辺を対象にしたD I G活動
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ活動を通して、学校周辺の危険箇所や災害時に有用な施設などを地図から探し出し、災害時の活動に役立つ知識を身につける。</li> <li>○活動を通じて、災害時や日常における防災意識を高める。</li> <li>○メンバーとのコミュニケーションを通じて、各々の個性を理解し相互理解を深める。</li> </ul>
日時・場所	平成28年10月13日（木）、10月20日（木）、10月27日（木） 11月10日（木） 16時～17時 各1時間（10月13日は30分程度の説明）
実施教科等（実施時間）	生徒委員会活動（管理運営グループ） （実施時間 220分）
参加人数	本校生徒38名
ファシリテーター	本校教員（管理運営グループ）
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校周辺の地図（班ごと）</li> <li>・マジック（6色以上班ごと）</li> <li>・付箋（色別付箋3、4色班ごと）</li> <li>・はさみ</li> <li>・のり</li> <li>・シール（丸型シール3、4色班ごと）</li> </ul>
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 4日間にわたり、防災委員会の活動として実施。</li> <li>○ D I Gの説明から地図の作成、班ごとの発表を行う。 （生徒の参加人数は、毎回38名以上）</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【班ごとの地図作成風景】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【D I G説明後の作業風景】</p> </div> </div>
参加者の主な声	<p>【生徒アンケート】</p> <p>&lt;完成した防災地図を見て、気づいたことを書きなさい。安全面、不安面&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校が多いことに気づき、避難がしやすい。避難箇所が多いことで、一人で不安になることを防げる。</li> <li>&lt;災害時に自宅まで歩いて帰る場合、どのルート歩いて帰りますか。&gt;</li> <li>○主要道路で帰る。狭い道だと土砂崩れ、木などが倒れている場合があるから。</li> </ul>

工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第1日目を説明に当て、実際の作業を3日間にわたり行った。完成した成果物をもとに、発表を行い、さまざまな考え方があることに気づかせた。</li> <li>○また、班とは別に個々の「振り返り」を行うことで、より一層、目的意識を持たせることができた。また、DIGの理解を深めることができた。</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒達は、既存の防災訓練だけでなく、図上訓練も重要であることなど、訓練の意義を理解した。</li> <li>○生徒達は、3日間の日程を真剣に行い、DIGにより学校周辺の様子を知ることができた。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今回は、防災委員による訓練であったが、全生徒が参加できれば一層意義のあるものになる。</li> <li>○発表を職員、生徒が聞ける機会があれば一層意義のあるものとなる。</li> </ul>
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○成果物を廊下等に張り出し、学校の周辺の様子を理解してもらう。</li> <li>○防災委員の活動を周知するとともに、防災の重要性を認識してもらう。</li> </ul>

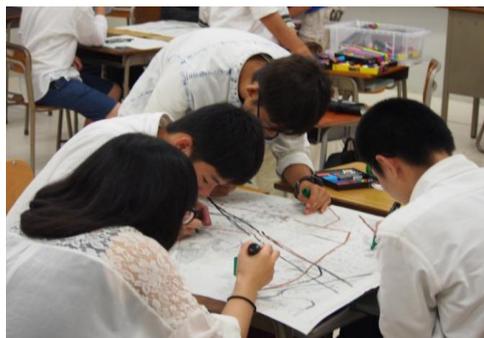
## 事例5 平塚商業高等学校

名 称	第2回防災退避訓練（D I G訓練を併せて実施）
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「人命の安全を第一」とした行動をとる意識の形成</li> <li>○地震発生に伴う火災や避難、集合方法を体験させる</li> <li>○リーダーとなる生徒の育成</li> </ul>
日時・場所	平成28年9月26日（月）14時25分～15時15分 グラウンド、ホームルーム（HR）教室
実施教科等 （実施時間）	ロングホームルーム （実施時間 50分）
参加人数	自校生徒550名・教職員35名
ファシリテーター	自校の教員（学校管理グループ）
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難経路図の確認</li> <li>○学級委員に事前指導（避難時の対応、D I Gの概要説明）</li> <li>○学級委員による防災マップ作成</li> </ul>
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級委員による防災マップ作成。</li> <li>○地震発生によるシェイクアウト訓練。</li> <li>○火災発生により避難経路を通過してグラウンドへの退避・集合確認。</li> <li>○教室においてD I G（災害図上訓練）、学級委員による説明。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【防災マップ作成】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【廊下に掲示した防災マップ】</p> </div> </div>
参加者の 主な声	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○防災マップを作成して、普段気付かなかった施設があることがわかってよかった。</li> <li>○学級委員の説明のときに地図が手元に無かったのでわかりにくかった。</li> </ul>
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難訓練とD I Gを組み合わせた点</li> <li>○学級委員からクラスに概要を説明させた点</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地震発生時における行動、また、火災発生時における避難経路の確認ができた。</li> <li>○集合・点呼において、学級委員と担任との協力体制が確立された。</li> <li>○D I Gと組み合わせたことで、地震発生時だけでなく、その後の行動についても、シミュレーションすることができた。</li> </ul>

課 題	<p>○シェイクアウト訓練は、生徒の体格により机の下にもぐるのは難しい。</p> <p>○地震時における火災のため、避難経路が限定され、生徒が集中し避難に時間がかってしまった。</p> <p>○生徒全員が防災マップ作りを体験していない。</p>
今後の展開	<p>地図上だけではなく、Googleマップのストリートビューを活用し、危険箇所などイメージさせやすいD I G研修を実施する。</p>

## 事例6 小田原高等学校（定時制）

名 称	授業を利用したD I G・職員D I G研修
学習のねらい	○学校周辺の地理を確認し、災害時に危険な箇所や安全な場所を確認する。 ○活動を通じて、防災への意識を高める。
日時・場所	平成28年9月15日(木)14時45分～15時45分 教職員対象 選択教室 平成28年9月16日(金)17時30分～19時 生徒(1年2組)対象 102教室 平成28年9月29日(木)17時30分～19時 生徒(1年1組)対象 101教室
実施教科等 (実施時間)	職員対象 D I G研修受講教諭を講師とする(実施時間1時間) 生徒対象 現代社会(実施時間1時間30分)
参加人数	生徒40名 (1年2クラス)・教職員16名
ファシリテーター	自校の教員(地理歴史・公民科)
事前準備	○事務用品(付箋、カラーペン、シール等)の購入 ○D I G用地図の作成 ○自主教材プリントの作成 ○パワーポイントの作成
実施内容	<p>○全職員対象とした研修(前日) D I G研修受講教諭が講師となり、全職員を対象に実施した。</p> <p>○生徒を対象とした実践 現代社会を履修している1年次生徒を対象に実施した。</p> <p>(1) 地震災害についての基礎知識の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月1日の防災の日の説明から始め、風雨災害なども含めて、災害についての認識を深め、これに対処する心構えを学んだ。</li> <li>・次に関東大震災、阪神淡路大震災、東日本大震災について学習した。</li> <li>・関東大震災では小田原が受けた被害について解説した。さらに阪神淡路大震災と東日本大震災を比較して、都市型直下型地震と津波による被害の内容を比較した。</li> </ul> <p>(2) D I Gの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・D I Gについては、D I G研修の内容に準じて実施した。学校周辺の地理を把握することに重点を置いた。最後に本校の立地条件はどのような災害に強く、逆に弱いのか、話し合った。</li> </ul>



【D I G授業の様子】

参加者の 主な声	<p>【教員】</p> <p>○1年に1回、学校周辺の地理について意見交換をするのは、防災上重要だと思った。地図広げることで、新たな発見もあった。</p> <p>【生徒】</p> <p>○小田原高校は高台にあるが、最寄りの小田原駅周辺は海拔が低く、津波の被害が心配だということが分かった。</p>
工夫した点	<p>○DIGを始める前の講義については、テレビに写真を写し、視覚に訴えるようにした。また地元・小田原への被害についても触れ、災害が自分の身の回りで起こり得るという意識を持たせた。</p>
成 果	<p>○学校周辺の地理を確認することができた（特に、本年度着任の職員に対しては有意義だった）。</p> <p>○学校周辺の危険箇所や地域の様子について情報を共有することができた。</p> <p>○学校周辺の地理の特徴を確認することができた。</p> <p>○学校周辺の危険箇所について情報を共有することができた。</p>
課 題	<p>○生徒に対して、効果的に実施する方法を検討していきたい。</p> <p>○大多数の生徒が積極的に参加できたが、一部消極的な生徒がいた。</p>
今後の展開	<p>1年次授業に位置づけたことにより、すべての生徒がDIGを経験し学校周辺の危険箇所や地域の様子についての情報を共有する体制が整った。今後は、さらに有効な防災訓練の在り方について検討していきたい。</p>

## 事例7 小田原総合ビジネス高等学校

名 称	授業を利用した災害図上訓練（D I G）
学習のねらい	○地理の授業で学習した知識をもとに、学校周辺の地図を読み、公共施設や病院、コンビニ、避難所を確認するとともに、地域の特徴で防災上の長所、短所をグループで検索する。 ○学習したことをもとに、地震、津波に対する心構えを話しあう。
日時・場所	平成28年11月1日（火）14時30分～15時20分 社会科教室 平成28年11月11日（金）8時55分～9時45分 社会科教室
実施教科等（実施時間）	地理A （実施時間 100分）
参加人数	自校生徒36名
ファシリテーター	自校の教員（地歴・公民科）
事前準備	各班に1枚学校周辺の地図（A3版8分割）、マーカーペン、付箋2色、5色シール
実施内容	○36名（地理選択生徒）を6班に分け、それぞれに小田原市の地図を用意させる（貼り合わせ作業）。 ○道路、鉄道、河川、公共物、避難所、病院等を色分けして、マークもしくはシール貼りの作業を行う（具体名は付箋に書いて貼りつける）。 ○作業が終わったら、市内の安全地域、危険地域、トイレの確保等について話し合いをさせた。
参加者の主な声	【生徒1】 ○細かい道などはいつも通っているのと地図とでは食い違っている場所もあって、どのように線を引いたらよいか戸惑った。 【生徒2】 ○学校の近くというのは、意外に逃げこめる場所が少ないのに驚いた。 ○いざという時のトイレは本当に困ると思った。 ○きちんと準備をしておく必要がある。
工夫した点	グループのメンバーでそれぞれ住んでいる場所を中心に分担を決め、あらかじめしっかりと下見をしておくことにした。
成果	○日頃、意識せずに通り過ぎている地域の施設や建物等について新たに「気づく」ことができた。いざという時にどこへ行けばよいかということを考え、確認することができた。 ○活発な意見を出し合って、グループごとにそれをまとめることができた。その成果は教室内にすべて貼りだして、見比べさせた。
課題	○地図作りに多大な時間を費やしてしまう。 ○授業で扱うというのはいずれにしても中途半端になる。2時間以上はこれに費やすことは難しい。
今後の展開	地図はグループの分だけ最初に作成しておき、授業では純粹にD I G訓練のみを行うようにしたい。

## 事例8 座間高等学校

名 称	Webを活用したDIG
学習のねらい	○そもそもDIGとは何かを理解する。 ○災害発生時の行動の要点を確認する。
日時・場所	平成28年7月25日（月）15時～16時 会議室
実施教科等 （実施時間）	職員会議後の教職員対象研修 （実施時間 60分）
参加人数	教職員36名
ファシリテーター	自校の教員（総括教諭根元一幸）
事前準備	校内で用意できるディスプレイ分離型のノートパソコン9台、 プロジェクター、配線関連の用意
実施内容	<p>○在籍教員を9班に分け、記録係1名、発表係1名の役割分担を決めた。 ○タブレットを用いて「横浜 防災マップ」を使い災害図上訓練を実施した。 ○グループで話しあった結果を、発表を通して防災の情報・知識を共有する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【防災マップ検索中】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【各グループで避難場所を検討中】</p> </div> </div>
参加者の 主 な 声	<p>【教員】 ○避難経路について、実際は高低差などを考慮する必要があるなど、具体的な行動の指針を確認できてよかった。 ○日ごろから、避難所の位置確認や、避難経路を考える習慣づけに立った。</p>
工夫した点	紙の地図と違って、Web上の横浜市防災マップを活用することによって、条件の設定をいろいろと変えて実施できる。
成 果	GIS (Geographic Information System) の仕組みや活用方法の体験を通じて、実際の災害をイメージし、災害時に役立つ知識の共有化を計ることができ、防災意識を高めることができた。
課 題	今回は横浜地域の防災地図を使っただけの研修であったので、学校の周辺を設定した研修の実施。
今後の展開	3月に近隣住民を招き、DIG演習を実施する予定です。

## 事例9 鎌倉養護学校

名 称	災害図上訓練（D I G）研修
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○神奈川の地震災害について学び、学校授業時にももしも地震が起こったら、一人ひとりがどのように対処したらよいかを考える機会とする。</li> <li>○グループ活動を通じて、学校周辺の危険箇所や災害時の活動に役立つ知識を身につける。</li> <li>○活動を通じて、災害時をイメージし、日常の防災意識を高める。</li> </ul>
日時・場所	平成28年8月22日（月）9時～12時 食堂
実施教科等（実施時間）	職員研修（指導グループ・防災係） （実施時間 180分）
参加人数	自校教職員37名、玉縄自治会5名
ファシリテーター	外部講師 （防災アドバイザー 葉木 洋一氏 他3名）
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外部講師の方との打ち合わせ</li> <li>○使用する地図や、物品（マジック・シール・付箋等）準備</li> <li>○参加者グループ分け</li> </ul>
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○神奈川の地震災害について学び、災害図上訓練（D I G）研修を実施した。</li> <li>（1）講演 防災アドバイザーによる「神奈川の地震災害」について講演を聞いた。</li> <li>（2）災害図上訓練（D I G） 参加者が6～7人ずつのグループに分かれ、鎌倉市のハザーマップを使用して行った。</li> </ul>
参加者の主な声	<p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○少人数のグループで話し合えてよかった。</li> <li>○地図を見て、自分たちの区域が土砂災害の危険性があることがよくわかった。</li> <li>○近隣の方も参加してくださったことによって、一緒に考えることができた。</li> <li>○福祉避難所を開設した場合の教員の動きに関して、何をすべきかシミュレーションしたことがあった。こうした機会を持つことも良いのではないか。</li> </ul>
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自治会の方には、職員との交流も兼ね、1～2人ずつ、3グループ（全6グループ）に分かれて入っていただき、話がしやすいようにした。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校周辺の危険箇所や防災物資、災害時に有用な施設等を確認することができた。</li> <li>○災害時をイメージし、防災に対する意識を高めることができた。</li> <li>○近隣の方と意見交換をし、地域の防災に関する現状について話し合うことができた。</li> </ul>
課題	D I G研修と併用して、福祉避難所を開設した場合の教員の動きを確認したほうが良いかが検討事項である。
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○D I G訓練参加対象者を広げる。</li> <li>○福祉避難所開設に向けて、次年度、図上避難所運営訓練を行う予定。</li> </ul>



**地域と連携した防災訓練等事例集【平成28年度版】**

平成28年12月

神奈川県教育委員会  
教育局総務室教育ビジョン・防災グループ

(電話) 045-210-8078